

あきたの 語り部 かちど

VOL. 489
2016.3.25

「川沿いに咲く」

場所は潟上市飯田川の水路沿いです。「水路」なのですが、皆さん「川」と呼んで親しんでいます。日当たりがいいので、付近で一番先に菜の花が咲く場所です。

写真提供：鈴木 公英
(新城川土地改良区)



イメージキャラクター
みどりちゃん

CONTENT 1 第58回本会通常総会を開催

CONTENT 2 2015語り部交流会inあきた

本会第58回通常総会

3月22日、本会第58回通常総会が秋田県社会福祉会館で開催され、会員111名(内委任状55名)が出席したほか、来賓として堀井啓一秋田県副知事、豊田育郎東北農政局長、秋田県議会近藤健一郎副議長、石井浩郎参議院議員等のご臨席を賜った。



まず、本会高貝会長が挨拶を行い、「国や県は、現在、農業に関する各種施策を展開しておられるが、我々はこうした施策を積極的に活用し、持続可能な強い農業経営に向けた農業インフラの整備を推進していかなければならない」と述べた。また、国の農業農村整備予算について、27年度補正と28年度当初案を加えた額が27年度当初と比べ1222億円増額されたことに関し、皆様のご協力のおかげであるとして感謝の言葉を述べ、引き続き予算の増額に向け努力して参りたいと述べた。引き続き行われた功労者表彰では、優良5団体、17個人の表彰が行われた。堀井副知事からは、「秋田県の産業や中山間地域が良くなっていくには、農業・林業を維持していくことが大切。担い手の確保・育成については新規就農者が200人を越え、100haを越えるメガ団地も県内で見られるようになった。それには、ほ場整備という契機があってこそ。今後も県内のニーズに合わせて益々ほ場整備を拡充していくために、予算確保に尽力していきたい」とのご祝辞を頂いた。議事では、牧野秀孝理事長(三種町浜口土地改良区)を議長に選任し、平成26年度事業報告・一般会計収支決算及び財産目録について、平成27年度一般会計収支補正予算(理事会専決処分)について、平成28年度事業計画・一般会計収支予算等が審議され、議案はすべて原案通り議決された。



- また、平成28年度事業計画については、
- (1) 農業の体質強化に向けた強い生産基盤づくり
 - (2) 土地改良区支援の充実
 - (3) 水土里情報システム利活用の推進
 - (4) 小水力発電への取り組み
 - (5) 安全・安心な農村環境づくりへの支援
 - (6) 活力に満ちた地域活動への支援
 - (7) 技術士事務所の活用強化

以上を重点項目と位置づけて行っていくことを決定した。

最後に、「決議文(案)」が清野専務理事により朗読され、満場一致で採択された。



目次

CONTENTS

2	本会第58回通常総会
4	2015語り部交流会inあきた
5	「秋田の活力2016」フォーラム開催
6	平成27年度秋田県農地中間管理事業の実施状況
7	OB会定例会
8	ちよっと耳より知恵袋「今年度の相談まとめ」
9	来てくれ！大館市

2	ようこそ改良区へ(にかほ市土地改良区：戸蔭静男)	10
4	会員だより、連合会だより	10
5	随想(秋田県能代地区土地改良区：赤塚祐佳)	11
6	土地改良区合併のお知らせ	11
7	水土里レポーターからの写真投稿(大館市南土地改良区：佐々木拓也)	12
8	第16回写真コンクール入賞者発表	12
9	リレー感想文、編集後記	12

決 議

記

- 安定的・計画的な事業執行のため、平成29年度当初予算において現場の要望に応えられる規模の農業農村整備予算を確保すること。
- TPP対策として、既存の農林水産予算の枠組みに影響を与えないよう、政府全体で責任を持ち、毎年度必要な予算措置を講ずること。
- 農業の構造改革を加速化するため、水田の大区画化や汎用化などの対策を着実に推進すること。中山間地域においては、地域特性を踏まえた基盤整備により、農業経営の持続的発展が可能となるよう配慮すること。
- 農村地域の強靱化に資するよう、ため池などの農業水利施設の長寿命化、耐震化、並びに地域の防災・減災対策を国が責任をもって推進すること。
- 多面的機能支払交付金制度の推進にあたっては、支援協議会、水土里ネットの技術、経験を生かせるような体制を構築すると共に、十分な予算措置を講ずること。
- 農地、農業用水などの地域資源を守る水土里ネットの運営基盤の強化・管理体制の充実に向けた取り組みを支援すること。
- 農地中間管理事業の推進にあたっては、水土里ネットの有する技術・経験や地図情報システムを活用すると共に、ほ場整備事業との連携を図るなど、制度の円滑な実施に努めること。
- 小水力発電など、農業・農村における再生可能エネルギーの普及・促進に向けた支援を行うこと。

平成28年3月22日

秋田県土地改良事業団体連合会 第58回通常総会
(水土里ネット秋田)

団体表彰

【金章】 琴丘土地改良区、大仙市大曲土地改良区

【銀章】 能代市榊土地改良区、飯田川土地改良区

【銅章】 仙北市田沢湖若松堰土地改良区

個人表彰

佐々木松男、高橋豊彦、大塚金弘、伊藤錚悦、長坂一二、
加藤光儀、小松忠彦、田仲忠雄、佐藤辰雄、岩田榮徳、
佐々木正子、石山雄康、佐藤高義、小西一三、奥山惣一、
瀬川等、高橋和美
(敬称略)



第57回全国土地改良功労者表彰の決定について

3月25日、東京都のシェーンバッハ・サポー(砂防会館別館)にて全国水土里ネット表彰式(第57回全国土地改良功労者表彰)が行われました。なお、今年度の本県関係の受賞者は次の通り。

団体表彰

◇金章 能代南土地改良区

◇銀章 仙北市西木土地改良区、おものがわ土地改良区

◇銅章 秋田市上新城土地改良区

個人表彰

◇役員 近田 榮一(湯沢市中央土地改良区理事長)

◇職員 千田 博(大潟土地改良区事務局長)

2015語り部交流会inあきた

農業農村の『水のつながり』は『人のつながり』



1月28日、横手市平鹿生涯学習センターで職員会平鹿支部主催の「2015語り部交流会inあきた」が開催され、約300名が参加されました。

この会は、森から里に至るまでの「水のつながり」を、先人から次世代へ、また、現在の多数の人々の「人と人のつながり」で守っていくことの大切さを広めるために行われています。今回は、平鹿地域に現在あるダムやため池、頭首工などの基幹的農業水利施設を取り上げ、こうした施設は水不足の苦難を克服するために作り出されてきたという歴史を有するものであり、また施設と用水を守り継いできた人々の足跡をお伝えする事としました。

はじめに主催者代表として、秋田県土地改良事業団体連合会平鹿支部の柴田康二郎支部長が「横手の地でこのようなイベントを開催できて喜ばしい。毎年、語り部交流会を通じて菅江真澄のことをいきいきと伝えてくれる菅原先生にも感謝」と、自身の故郷での交流会の開催を歓迎しました。基調講演では「水で結ばれた水系社会～山城堰に学ぶ～」と題して、あきた森づくりサポートセンターの菅原徳蔵所長が、次に山城水系土地改良区太田剛史氏を含む3名の方が事例発表を行いました。後に開催された「パネルディスカッション」では、平元美紗緒さんをコーディネーターに迎え、オブザーバーとして参加された県農林水産部の瀧川拓哉参事も、「農家数の減少、非農家の割合増大、農地集積の進展といった変化に対応して適切に農業水利を保全・継承していく必要がある」として、「人のつながり」に着目した施策などについてもお話しされました。

最後に、秋田県平鹿地域振興局農林部長沢淳良部長が「農業農村における『水のつながり』やそれを通して『人のつながり』を地域創生の源の一つと位置づけ、今後の農村振興や地域生活の活性化に結びつけていきたい」と会を閉じ、今後益々の水系の発展を願いました。



(「山城堰」については、487号の「ようこそ土地改良区へ」で特集されています。また、3月末発行の「大地の恵みvol.17」では「2015語り部交流会inあきた」について詳しく掲載しています)

事例発表の一例

「山城堰と堰根祭」

山城水系土地改良区 太田剛史氏

山城堰で行われてきた雄物川周辺住民による取水行為「草止め」は、水路の老朽化などの理由から昭和27年に県営かんがい排水事業としてコンクリート製の頭首工及び幹線用水路の改修工事に着手し、姿を消しました。しかし、「水のありがたさを後世に伝えよう」という思いから、毎年春に『堰根祭』を開催し、川の恵みであるクギザッコ(ウグイ)を関係者全員でありがたく頂いています。土地改良区の仕事も、今回のテーマである「人」と「水」を繋ぐ役割。今後もこの地で、人と水を繋ぎながら共に歩んでいきたいです。

